

### 3 中学校「国語」

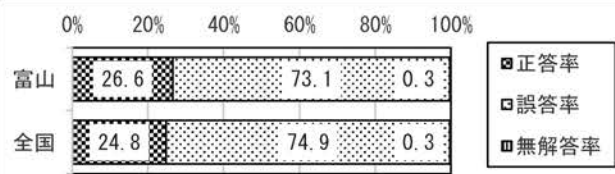
#### (1) 問題番号2一 <正答率が低い問題>

学習指導要領における領域・内容：2 学年 B 書くことエ

評価の観点：書く能力 問題形式：選択式

【出題の趣旨】 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことができるかどうかをみる。

- ・正答率は26.6%で、全国平均よりも1.8ポイント高いが、国語では2番目に低い。
- ・誤答については、④の欄に4と解答し、③の欄に1以外を選んだ解答が37.8%（全国37.1%）あり、段落相互の関係を捉えられていないと考えられる。



5 4 3 2 1  
 直前の文で述べている意見の根拠であることをより明確にしよとした。  
 直後の文で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。

正答 ④4  
 ③1

一 山田さんは、【意見文の下書き】を読み返して、④と③のように直しました。その意図として最も適切なものを、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選びなさい。

- ① SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）などを活用し、インターネット上で文字を通したやりとりをする機会が増えてきている。私は、SNSでやりとりをする際は、相手にどう伝わるかをよく考えながら言葉を選んで使うべきだと思う。SNSは少ない文字数で自分の思いや考えを表現することが多く、相手に伝えたいことが正しく伝わらないことがある。
- ② 以前、私は次のような経験をした。SNSを使い、みんなで待ち合わせの相談をしていたときのことである。一人の友達に対して、待ち合わせの場所までの交通手段を尋ねるつもりで「何で来るの。」と書いたところ、「どうして行つてはダメなの。」という返信が来て、はつとさせられたことがあった。友達は、私の言葉を「なぜ来るのか。」という意味で捉え直ったのだ。そのとき私が、友達に誤解を与えないように「いねいに書いていけば、このようなことは起こらなかったらう。」
- ③ 皆さんの中には、友達同士であれば短い言葉でも十分に意思疎通が図れると考えたり、短い言葉でやりとりができる手軽さこそがSNSのよさだと考えたりする人もいるだろう。しかし、伝えたいことが正しく伝わらなければ、私が経験したように相手に誤解を与え、不快な思いをさせてしまうこともあるのだ。
- ④ SNSで自分の思いや考えを表現する場合には、内容を相手に正しく伝えるために、言葉を十分に吟味して使うことが大切だ。少なくともあの経験以来、私は、SNSを使ってやりとりをする際には、自分が書いた言葉を必ず読み返してから発信するようにしている。

【意見文の下書き】

② 山田さんは、国語の時間に、「言葉の使い方について」というテーマで意見文を書いています。次は、山田さんが書いた【意見文の下書き】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。(1)から(4)は、段落の番号を表します。)

#### 学習指導上の留意点

##### ○ 読み手の立場に立って文章を整えることができるようにする

自分が書いた文章について捉え直し、分かりやすい文章に整える力を身に付けるために、第1学年では表記や語句の用法、叙述の仕方等を、第2学年では表現の効果等を、第3学年では目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめることについて指導する必要がある。

#### 指導のポイント

- ・自分の考えを伝えたり印象付けたりする上で、書いた文章の表現がどのように働いているかを確かめるなどの学習活動を設定する。
- ・自分が書いた文章を説明や具体例、描写等に注目して見直し、これらの表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるかなどについて検討し、誤解のない表現やより効果的な表現にしていくための時間を設定する。

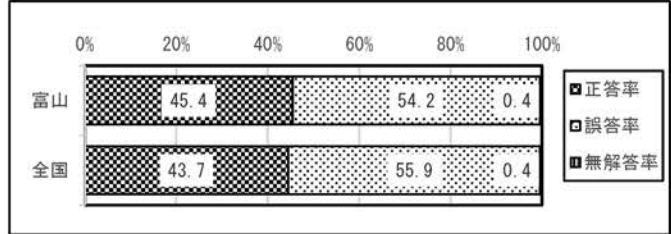
(2) 問題番号 3 — <正答率が低い問題>

学習指導要領における領域・内容：1 学年 C 読むことア

評価の観点：読む能力 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 文脈の中における語句の意味を理解しているかどうかをみる。

- ・正答率は 45.4% で、全国より 1.7 ポイント高い。
- ・誤答については、4 を選んだ解答が 35.5% (全国 36.6%) であり、「のみこむ」という言葉の意味を踏まえているが、「呼吸」という言葉の意味を的確に捉えることができていないものと考えられる。



3 次は、夏目漱石の作品『吾輩は猫である』の本のカバーに書かれている【紹介】と【文章の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【文章の一部】

ある日、例のごとく吾輩と黒は暖かい茶壺の中で寝ころびながら、いろいろ雑談をしていると、彼はいつもの自慢話をさも新しくくりかえしたあとで、吾輩に向かって下のごとく質問した。

「おめえはいままでに鼠を何びきとったことがある。」  
 知識は黒よりもよほど発達しているつもりだが、腕力と勇気にいたってはとうてい黒の比較にはならないと覚悟はしていたものの、この問いに接したときは、さすがにきまりがよくはなかった。けれども事実は事実で、いつわるわけにはゆかないから、吾輩は、  
 「実はどうしようもなくて、まだとらない」と答えた。

黒は、彼の鼻の先からびんとつばっている長いひげをびりびりとふるわせて、非常に笑った。元来黒は自慢をするだけにどこか足りないところがあって、彼の気焰を感じたようにのどをこころ鳴らして謹聴していれば、はなはだ御しやすい猫である。吾輩は彼と近づきになってからすぐにこの呼吸をのみこんだから、この場合にも、なまじいおれを弁護してますます形勢を悪くするのも愚である。いっそのこと彼に自分の手柄話をしゃべらしてお茶をにごすにしくはないと、思案を定めた。そこでおとなしく、  
 「君などは年であるから、だいぶんとつたろう」と、そそのかしてみた。

【中略】  
 「しかし鼠なら、君にいらまれては百年目だろう。君はあまり鼠をとるのが名人で鼠ばかり食うものだから、そんなにふとって色つやがいいのだろう。」  
 黒のごきげんをとるためのこの質問は、ふしぎにも反対の結果を呈出した。彼は喟然として大息している。

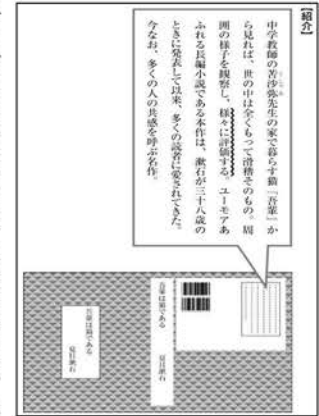
「考げえるとつまらねえ。いくら稼いで鼠をとったって——いつてえ人間ほどふてえやつは世の中にいねえぜ。人のとった鼠をみんな取りあげやがって、交番へ持ってゆきあがる。交番じゃ、誰がとったかわからねえから、そのたんびに五銭ずつくれるじゃねえか。うちの亭主なんか、おれのおかげでもう一円五十銭くらいもうけていやがるくせに、ろくなものを食わせたこともありやしねえ。おい、人間でもあ体のいい泥棒だけ。」  
 さすが無学の黒もこのくらいの理屈はわかるとみえて、すこぶるおこったようすで背中の毛を逆だてている。吾輩は少々気味が悪くなったから、いかげんにその場をごまかして、うちへ帰った。

【後略】

— 線部①「呼吸をのみこんだ」とありますが、この部分の意味として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい

- 1 コツをつかんだ。
- 2 息を吸い込んだ。
- 3 ため息を抑えた。
- 4 発言を我慢した。

正答 1



学習指導上の留意点

- 文脈の中における語句の意味を理解しながら文章を読むことができるようにする  
 文章を読む際には、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈における意味を具体的かつ個別的に捉え、その語句が文章の中で果たしている役割を考えるように指導することが大切である。

指導のポイント

- ・文章を読んで新しく出合った言葉を複数取り上げ、辞書にある様々な意味から文脈上の意味を捉えるなどの学習活動を設定する。
- ・語句の意味について調べたことを記録したり、その語句を使った短文を作ったりするなど、実際の文章の中で使うことができるように指導する。



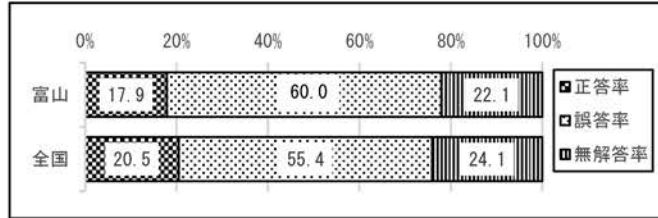
(3) 問題番号 3 四 <正答率が低く、無解答率が高い問題>

学習指導要領における領域・内容：1 学年 C 読むことオ

評価の観点：国語への関心・意欲・態度、読む能力 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができるかどうかをみる。

- ・正答率は 17.9% で、全国より 2.6 ポイント低い。また、国語の中で最も低い。
- ・ものの見方や考え方が表れている部分を明確にすることに課題があり、誤答については、条件に合った表現を文章の中から引用していない解答が 49.2% (全国 44.6%) あった。



3 次は、夏目漱石の作品『吾輩は猫である』の本のカバーに書かれている「紹介」と「文章の一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【文章の一部】

ある日、例のごとく吾輩と黒は暖かい茶晶の中で寝ころびながら、いろいろな雑談をしていると、彼はいつもの自慢話をさも新しくくりかえしたあとで、吾輩に向かって下のごとく質問した。

「おめえはいままで鼠を何びきとったことがある。」

知識は黒よりもよほど発達しているつもりだが、腕力と勇気とにいたってはとうてい黒の比較にはならないと覚悟はしていたものの、この問いに接したときは、さすがにきまりがよくはなかった。けれども事実は事実で、いつわるわけにはゆかないから、吾輩は、

「実はとうとうとうとと思って、まだとらない」と答えた。

黒は、彼の鼻の先からびんとつばつばつと長いひげをびりびりとふるわせて、非常に笑った。元来黒は自慢をするだけにとどこか足りないところがあって、彼の気焔を感じたようにのをこころ鳴らして謹聴してあげれば、はなはだ御しやすい猫である。吾輩は彼と近づきになってからすぐにこの呼吸のみこんだから、この場合にも、なまじいおれを弁護してますます形勢を悪くするの愚である。いっそのこと彼に自分の手柄話をしゃべらしてお茶をにごすにしくはないと、思案を定めた。そこでおとなしく、

「君などは年が年であるから、だいぶんとたろう」と、そそのかしてみた。



【中略】

「しかし鼠なら、君にいらまされては百年目だらう。君はあまり鼠をとるのが名人で鼠ばかり食うものだから、そんなにふとって色つやがいいのだから。」

黒のごきげんをとるためのこの質問は、ふしぎにも反対の結果を呈出した。彼は啞然として大息している。「考げるとつまらねえ。いくら稼いで鼠をとったって、いってえ人間ほどふてえやつは世の中にいねえぜ。人のとった鼠をみんな取りあげやがって、交番へ持ってゆきあがる。交番じゃ、誰がとったかわからねえから、そのたんびに五銭ずつくれるじゃねえか。うちの亭主なんか、おれのおかげでもう一円五十銭くらいもうけていやがるくせに、ろくなものを食わせたことありやしねえ。おい、人間てものあ体のいい泥棒だぜ。」

さすが無学の黒もこのくらいの理屈はわかるとみえて、すこぶるおこったようすで背中の毛を逆だてている。吾輩は少々気味が悪くなったから、いかげんにその場をごまかして、うちへ帰った。

【後略】

【夏目漱石『吾輩は猫である(上)』による】

四 【紹介】に「線部」様々に評価する」とありますが、「文章の一部」では、「吾輩」は「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしていますか。また、あなたは、そのような「吾輩」の接し方をどう思いますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

条件1 「文章の一部」から、「吾輩」が「黒」を評価している表現を引用した上で、「吾輩」が「黒」にどのような接し方をしているかが分かるのかを詳しく書きなさい。

条件2 条件1のような「吾輩」の接し方について、あなたの考えを具体的に書きなさい。

正答例

・「はなはだ御しやすい猫である」と評価しており、「吾輩」は、「黒」の機嫌を取るような接し方をしていることが分かる。私は、このような「吾輩」の接し方は、とても賢いと思う。

・「腕力と勇気とにいたってはとうてい黒の比較にはならない」と書かれていて、黒に敬意をもつて接していることが分かります。悪い面だけでなく、相手の良い面にも目を向けることは大切なことだと思います。

学習指導上の留意点

- 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことができるようにする
- 文学的な文章を読むに当たっては、登場人物の言葉や行動が、話の展開や作品全体に表れたものの見方などにどのように関わっているかを捉え、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになっていたりすることが必要である。

指導のポイント

- ・文学的文章を読むに当たっては、これまで読み継がれてきた近代以降の代表的な作家の作品を紹介するなど、様々な作品に対する興味・関心を喚起するよう工夫する。
- ・文脈の中における語句の意味を理解したり、場面の展開や登場人物の描写に注意して読んで内容を理解したりするとともに、本のカバー等に書かれている紹介等も参考にしながら、文章に表れているものの見方や考え方を捉えられるよう指導する。
- ・感想や意見を交流する際には、目的や本を読む視点を意識させ、自分の考えの根拠となる表現を文章中から引用したり、引用した表現についてどのように読み取ったのかが相手に伝わるように説明したりするなどの留意点を示す。

参考：授業アイディア例 平成 29 年度 P. 5～P. 6 平成 25 年度 P. 11～P. 12